

『太平記』について

萩原 義雄

古写本『太平記』

永和（書写）本『太平記』（原本は高乗勲氏所蔵、影印刊）が現存最古の資料と知られ、次いで玄玖本『太平記』（前田育徳会尊経閣文庫蔵、影印刊）梵舜本『太平記』（前田育徳会尊経閣文庫蔵、影印刊）、神田本、中京大学蔵本等が既に公開刊行されている。

次に紹介する岩波古典大系の『太平記』は、古写本を用いずに底本として京都大学附属図書館蔵の古活字板を用いている。

マリオマレ
ガ文庫所蔵 本絵入版本『太平記』について

M M 150 『太平記』四十卷四十一冊（目録・劔巻、卷第一二冊欠本の三十八冊存）。無刊記。

軍記物語として、室町時代から江戸時代に定評を以て迎えられた此の書は、大部でありながらもその所持・保存状況は極めて良好な書物であったと云えよう。マレガ文庫の『太平記』は、卷二巻頭目録下に旧蔵者印「齋藤□□藏書印」「大原文庫」上に「善本角印」さらに、大尾に古書購入時の貼紙として「148 太平記卷一欠卅八冊、二千五百円、3629」とある。卷四十巻頭目録下に角印「高月鈴木文庫押印」（卷十以降この印を確認する）そして、大尾裏見返しに墨筆書込み「すぐきうじ」、卷十四裏見返しに「高鍋藩鈴木氏」（九州日向高鍋（現宮崎県高鍋町）秋月家二万七千石の家臣歟）と墨書にて記載し、

この書の卷二から卷九そして卷廿八、卷卅一の計十冊がA「齋藤□□藏書印」「大原文庫」上に「善本角印」であり、卷十から卷廿七、卷廿九・卷卅、卷卅二からはB「高月鈴木文庫押印」であって、二組の舊所蔵者の文庫本を取り合わせてマレガ師の手許に帰した書籍であることが判る。このように、卷によって舊所蔵者AとBとからなる良書を蒐めたものであることを茲に記しておく。そして、マレガ師はこの書の刊行年代を（一六三〇―一六六〇年）頃と推定し、その旨を卷二の表見返し部分にメモ書きしている。

本文は、行書体漢字假名交じり文にて、一丁十一行二十六程度にし、多くの漢字語句には傍訓を付している。また、章毎に二枚の挿絵を描き、臨場感を持たせているが、題箋には「繪入」という文字は標題には記されていないのである。また、挿絵中で気付くこととして、Bの舊所蔵にあつた卷二十九・卷三十には、念入りにその持ち主と思われる人物の手により彩色ぬり絵された箇所を見ることが出来る。このことは、江戸時代の『太平記』が単に読み物としてだけでなく、その場面を強く意識して視覚表現化しようという武家教養性に加えて、一種の娯楽性の働きを茲に感得できるからである。

《本文用例抜粋》

「さてハ小山の判官にてぞ有らん。一騎もあまさずうちとれ」とて、山名・里見の人々、むまのはなをならべて、をめきてかゝりけるほどに、小山が勢四角八方にかけちらされて。百騎ハかりはうたれにけり。（卷十四 33ウ⑩～34オ②）



※同じ箇所を土井本『太平記』を以て示すに、「さては小山判官にてぞあるらん。一騎も余さず打つ取れ」とて、山名・里見の人々、馬の鼻を並べて、喚きて懸かりける程に、小山が勢四角八方に懸け散らされて、百騎ばかりは討たれにけり。」とこの無刊記本には假名文字表記の語が多いことも伺えよう。

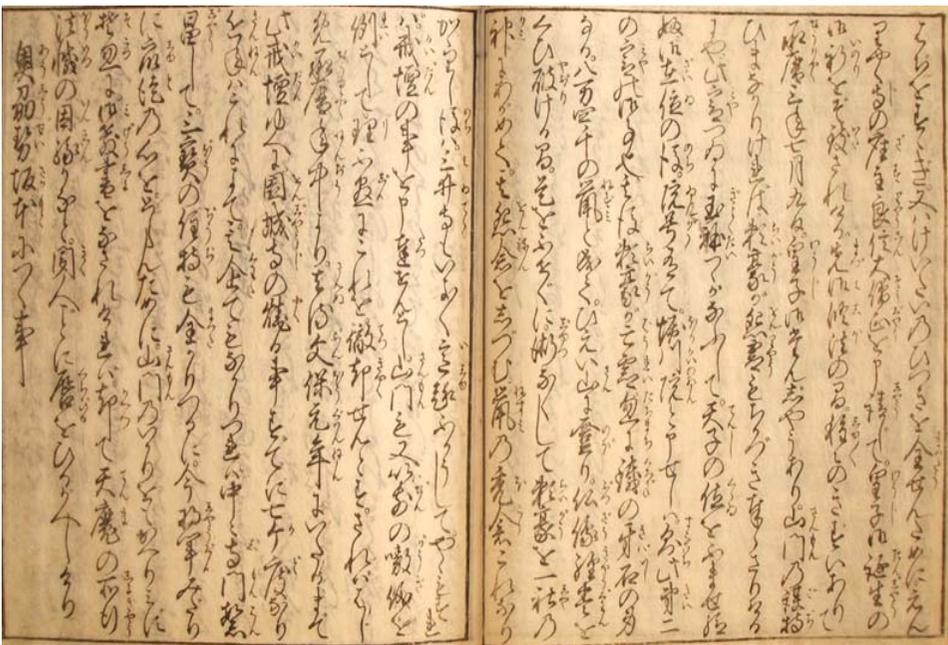
次に、「頼豪が怨靈の事」譚の場面を引用しておくことにする。茲での挿絵は、何気なく描かれていて矢張り文面が便りでないという意味を解せないところである。

かくて遙に程経て後。白川の院の御宇に。江のそつきやう房の兄に。三井寺のらいがう僧都とて、たつとき人有けるをめされ。皇子御たんじやうの御祈りをぞ仰せつけられける。らいがうちよくをうけ給て。かんたんをくだきてきせしけるに。陰徳忽にあらはれて。承保元年十二月十六日に皇子御たんじやう有てけり。みかど叡感のあまりに、「御い乃りの勸賞宜しくこふによるべしと。宣下せらる。らいかう、年来の所望なりければ。他の官禄一向、これをさしをいて。園城寺乃三まやかいだん造立の勅許をぞ申し給へりける。山門又これを聞てくわん状をさへげて禁廷にうつたへ。先例をひきてちやうはいせられんと奏しけれ共、「綸言二度かへらず」とて勅許なかりしかば。三塔がうきをもつて谷々のかうえんを打ちやめ。社々の門戸をどちて御願をやめける間、朝儀もだしがたくして。力なく三まやかいだん造立のちよくさいをぞ召かへされける。らいがうこれをいかりて。百日乃間かミをもそらずつめをもきらず。ろだん乃煙にふすぼり。しんい乃ほのほにほねをこがして。「我願くは即身に大まえんと成て。玉躰をなやまし奉り。山門の仏法をほろぼさん」と云悪念をおこして。つゐに三七日が中に壇上にして死にけり。其をんりやうはたしてじやどくをなしければ。らいがうが折出し奉りし皇子。いまだ母后乃御ひざのうへをはなれさせ給へ。忽に御かくれ有けり。えいきんこれによてたえず。山門乃がうそ。園城乃かうげん。とくしつはなはだしきことかくれなかりければ。かつは山門のはちをすゞぎ。又ハけいたい乃ひつきを全せんために。えんりやく寺の座主良信大僧正を申請じて。皇子御誕生

の御祈をぞ致されける。先御修法の間。種種のきずいありて承暦三年七月九日。皇子御たんじやうあり。山門乃護持ひまなかりければ、頼豪が怨靈もちかづき奉らざりけるにや。此宮、つゐに玉躰つつがなふして。天子の位をふませ給ふ。御在位の後。院号有て。堀河院と申せしハ。即此第二の宮の御事也。其後。頼豪が亡靈忽に鐵の牙。石



の身なる。八万四千の鼠と成て。ひえい山に登り。仏像・経巻をくひ破ける間。是をふせぐに。術なくして頼豪を一社乃神にあがめて。其怨念をしづむ。鼠乃禿倉これなり。かゝりし後ハ、三井寺もいよ／＼意趣ふかうして。やゝもすれば。戒壇の事を申達せんとし。山門も又以前の嗷儀を例として、理不盡にこれを。徹却せんとす。されバははじめ承暦年中より。去る文保



元年ぐんねんにいたるまで（一）此戒壇（二）ゆへに園城寺（三）の焼る事（四）すでに七ヶ度（五）なり。（卷第十五05才⑩〜07才⑤）
絵入本『太平記』のなかにはこのような図絵が見えないので、後の『伊勢名所図絵』の「頼毫成らいがうなる鼠ねずみ」から引用しておく。

《参考資料・諸本一覽》

太平記 / K / 2 / 軍記物語

- 01 太平記 / 国文研 / タ4・3111 / 21 / 刊 / 大 / 21冊 / W
02 太平記 / 群馬大新田 / N913.46 Ta22 / 刊 / 元和8 / 22冊 / 卷一〜一四欠 / K
03 大平記 / 新潟大佐野 / 33 / 刊 / 貞享5 / 21冊 / K
04 大平記 / 尾道図橋本 / 1165 / ? / 4冊 / 28cm / K
05 北野通夜物語 / 中京大図 / 貴一〇七 / 写 / 寛文頃 / 1軸 / 下卷存 / K
06 大平記 / 滋賀医大守一堂 / S154 / 刊 / 9冊 / 卷一〜二〇・二五〜二八・三一・三二・三七・三八存 / K
07 太平記拔書 / 弘前図 / W123.8・20 / 写 / K
08 太平記 / 酒田光丘 / 805 / 刊 / 10冊 / 横 / 卷一〜六・九・一〇・一三・一四・一八〜二八・三三〜三六存 / K
09 太平記 / 弘前図 / W913.4・6 / 刊 / 1冊 / 中 / 卷一〜四存 / K
10 太平記 / 弘前図 / W913.4・20 / 刊 / 1冊 / 美濃 / 卷一五・一六存 / K
11 絵入太平記 / 盛岡公民南部 / 刊 / 元禄11 / 3冊 / K

12 多入太平記 / 仏教大図 / 国書 15 / 刊 / 元禄11 / 11冊 / 14×20cm / K

13 繪入太平記 / 武蔵野美大服部 / H913.46 / T / 刊 / 元禄11 / 11冊 / 13×19cm / K

14 太平記 / 弘前図 / W913.4・22 / 刊 / 4冊 / 中 / 卷二五・二七・二九・三一存 / K

15 太平記 / 弘前図 / W913.4・21 / 刊 / 9冊 / 中 / 第一・二・第七・八・第九・一〇・第一一・一二・第一三・一四・第一五・一六・第一七・一八・第二二〜二四劍卷 / K

16 太平記 / 黒川公民 / 四一〇・二〇・三四 / 刊 / 大 / 2冊 / 卷十五・十六・三十七・三十八存 / K

17 太平記 / 久留米図 / 五29 / 刊 / 大 / 7冊 / 卷五十六・十一〜十六・十九〜二十四存 / K

18 太平記 / 盛岡公民南部 / 刊 / 享保7 / 21冊 / K

19 太平記 / 東京学芸大望月 / 913.46 / Ta22 / 刊 / 元禄11 / 11冊 / 13×20cm / K

20 太平記 / 久留米図 / 五30 / 刊 / 天和1 / 大 / 11冊 / 卷十九〜四十存 / K

21 太平記 / 対馬歴史宗家 / E9 / 刊 / 慶長15 / 大 / 18冊 / 卷一〜六欠 / K

22 太平記 / 甲南女大図 / Z913.4 T1 1.1・20 / 刊 / 寛永9 / 大 / 20冊 / K

23 太平記 / 弘前図 / W913.4・19 / 混 / 9冊 / 美濃 / 卷七〜一二・一五〜二〇・二三〜二六・二九・三〇存 / K

24 太平記 / 京大大惣本 / 5・08タ2 / 刊 / 大 / 3帙 / 21冊 / K

25 太平記 / 京大大惣本 / 5・08タ3 / 刊 / 元禄11 / 横 / 14・0×19・9cm / 2帙 / 1冊 / K

26 太平記 / 早大伊地知 / 四一三 一〜二二 / 刊 / 元禄10 / 21冊 / 13・2×19・3cm /

- 27 太平記／滝学園／刊／天和1／21冊／大／K
- 28 太平記／大阪天満宮／三〇・三／刊／元禄11／11冊／K
- 29 太平記／大阪天満宮／近三〇・四／刊／宝永3／21冊／K
- 30 太平記／佐賀大鍋島／〇九二七・二一／刊／貞享1／大／21冊／K
- 31 太平記／酒田光丘／804／刊／38冊／大／K
- 32 太平記／青森県函工藤／913・T／刊／宝永3／21冊／26cm／K
- 33 太平記／甲南女大函／Z913・4 T1 3・1・21／刊／大／21冊／K
- 34 太平記／甲南女大函／Z913・4 T1 2・1・40／刊／寛永1／大／40冊／K
- 35 太平記／京大大本／5・08夕4／刊／大／8帙／41冊／K
- 36 太平記／島根大桑原／刊／11冊／K
- 37 太平記／玉川大函／W913・46・夕／刊／元禄11／11冊／13×20cm／K
- 38 太平記／岡山大小野／913・4・14／刊／21冊／大／K
- 39 太平記／今治市河野美／二八二・三六二／刊／元禄11／10冊／第五冊欠／K
- 40 太平記／今治市河野美／二七六・七・三五七／写／42冊／K
- 41 太平記／今治市河野美／二七七・三五八／写／9冊／卷二・四・五・九・二一・二七・三〇・三四・三八存／K
- 42 太平記／今治市河野美／三〇一・三六三／刊／21冊／K
- 43 太平記／今治市河野美／二七八・三五九／刊／慶長15／21冊／K
- 44 太平記／今治市河野美／二七九・三六〇／刊／天和1／21冊／K
- 45 太平記／今治市河野美／二八〇・一・三六一／刊／貞享5／21冊／K
- 46 新刻太平記／佐倉高鹿山／刊／21冊／卷一・二・八〜一五欠／K
- 47 新刻太平記／酒田光丘／802／刊／貞享5／21冊／大／K
- 48 新刻太平記／酒田光丘／803／刊／20冊／大／K
- 49 太平記／石川県歴博大鋸／913・43・7／刊／1冊／20・0×14・5cm／残欠あり
- 50 新板太平記／岐阜市函／刊／万治3／19冊／美濃／卷第三〜四十存／K
- 51 太平記／石川県歴博大鋸／913・43・8／刊／2冊／13・5×19・5cm／劍卷・卷一・二存／K
- 52 太平記／長崎大経済武藤／723 M46／刊／38丁／27・5cm／1冊／卷二五・二六存／K
- 53 太平記／甲賀水口函／刊／8冊／13・5×19・5cm／残欠あり／K
- 54 太平記／甲賀水口函／刊／元和1／19冊／27×19・5cm／2冊欠／K
- 55 太平記／立命館西園寺／SB913・435／Ta 22／刊／元禄10／21冊／13×20cm／一〜二劍卷存／K
- 56 太平記／津市函橋本／橋91・3・67〜77／刊／元禄11／11冊／13×19cm／K
- 57 太平記／佐賀県函鍋島／鍋991 2214／写／江戸期／41冊／28cm／K
- 58 太平記／国学院高弦之舎／254／刊／貞享5／17冊／27×19cm／卷一〜六（3冊）欠／K
- 59 太平記／仏教大函／国書 12／刊／40冊／29cm／卷第一欠／K
- 60 太平記／仏教大函／09393 1／刊／元和8／21冊／28cm／K

- 61 太平記／ 仏教大図／ 国書 16／ 刊／ 寛文4／ 21冊／ 20cm／ K
 62 太平記／ 山口大棲息／ M913.46 TO5 A1・A21／ 刊／ 寛文11／ 21冊／ 28cm／ K
 63 太平記／ 佐賀県図鍋島／ 鍋991 2198／ 刊／ 享保10／ 20冊／ 26cm／ K
 64 太平記／ 津市図稲垣／ 稻21・93／ 刊／ 61丁／ 28cm／ 1冊／ 卷二五存／ K
 65 太平記／ 金沢泉丘高／ 七五八／ 刊／ 21冊／ 28×20cm／ K
 66 太平記／ 日本福祉大草鹿／ 刊／ 1冊／ 卷二六存／ K
 67 太平記／ 阪大図／ 547／ 刊／ 元禄11／ 11冊／ K
 68 太平記／ 阪大図／ 556／ 刊／ 2冊／ 一九・二〇・三三・三四存／ K
 69 太平記／ 石川県図饒石／ 91・50／ 刊／ 28 21丁／ 1冊／ 28cm／ 卷第二（二二存）
 K
 70 太平記／ 愛知県大図／ 貴9134 1・2 34／ 刊／ 江戸極初期／ 大／ 2冊／ 第三五卷（三八卷存）／ K
 71 太平記／ 三春町歴民資／ 写／ 39冊／ 卷二二欠／ K
 72 太平記／ 中京大図／ 貴一九／ 刊／ 慶長元和中／ 大／ 20冊／ K
 73 太平記／ 中京大図／ 貴七七／ 写／ 元和4／ 大／ 20冊／ K
 74 太平記／ 福井市図／ 文13 3・6 別／ 刊／ 慶長15／ 21冊／ 大／ K
 75 太平記／ 中京大図／ 貴二〇／ 刊／ 寛永1／ 大／ 41冊／ K
 76 新刻太平記／ 国文研／ タ4-63-11-21／ 刊／ 大／ 21冊／ W
 77 太平記／ 国文研貴重書／ 99-18-11-41／ 刊／ 寛永1／ 30×21cm／ 特大／ 41冊
 W

- 78 太平記／ 国文研貴重書／ 99-34-11-21／ 刊／ 大／ 21冊／ W
 79 太平記／ 国文研／ タ4-30-11-21／ 刊／ 大／ 21冊／ W
 80 太平記／ 国文研／ タ4-70-11-20／ 刊／ 天和1／ 大／ 20冊／ W

※マレガ文庫無刊記本と同種資料としては、**35 太平記**／**京大大惣本**（**京科大学附属図書館所蔵**）**谷村文庫『太平記』**共通する版確認済み）**59 太平記**／**仏教大図**（**卷一欠**）が相当するものと思われる。マレガ文庫本の欠本は、「**目録・劔巻**」「**卷第一**」の二冊であり、**卷二**は美本故、**谷村文庫**の欠損欠落箇所を補填可能な資料であり、また、**卷四十最終頁**「りしかば。氏族もこれを重じ。外様も。かの命をそむかずして。中夏無為乃代に成て。めでたかりし事どもなり」／**太平記卷第四十終** 此一部之筆者里兵衛書之」（**18才**）とあり、**谷村文庫**には見えない箇所である。この上からもマレガ文庫はこれを補える貴重な資料といえよう。

WORK [5301]

- 【書名】 太平記（たいへいき） K 2
 【巻冊】 四〇巻四一冊（内、目録・劔之巻一冊）
 【分類】 軍記物語
 【著作注記】 〈般〉 現存写本は卷二二欠。
 【著作種別】 J

